

国語科シラバス（第2学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

文章の内容や表現の仕方を理解させるために、効果的な言語活動を行います。
漢字練習や小テストを実施し、語句の知識を身につかせます。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

根拠を明確にし、筋道を立てて自分の考えをまとめる、発表する等の学習活動を展開します。
ワークシートを活用し、重点的に書く活動を取り入れ、自分の考えを表現する学習活動を展開します。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

新授業六束を徹底して指導し、授業規律を確立させます。
デジタル教科書などの視覚的教材を活用し、指導の工夫を図り、学習意欲を喚起させます。

● 評価の観点と評価規準

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度 (関心・意欲)	思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと ・書くこと・読むこと)	知識・技能 (文法・漢字 ・言語活動)
評価規準	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしている。	目的や場面に応じて、自分の考えや気持ちを明確に表現することができる。 話し手の考えや意見を聞いて、意図や目的を理解することができる。 伝えたい事実や事柄、考えをまとめ、材料を整理して適切に文章表現することができる。 文章に表れているものの見方や考え方を正しく理解し、自分のものの見方や考え方を広げることができる。	音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する知識を身につけて活用することができる。
評価方法	提出物、ノート記述 ポートフォリオ評価 漢字・文法の確認テスト	発言、スピーチ、聞き取りテスト 課題作文、ワークシート 定期テスト、小テスト、ポートフォリオ評価	漢字・文法の確認テスト、定期テスト 小テスト、ポートフォリオ評価

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A ^{マル} O A ^{マル} O A ^{マル} O	15点	A ^{マル} O A ^{マル} O A	14点			5
A ^{マル} O A A	13点	A A A	12点	A ^{マル} O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C ^{マル} O	8点	3
B C ^{マル} O C ^{マル} O	7点	C ^{マル} O C ^{マル} O C ^{マル} O	6点	C ^{マル} O C ^{マル} O C	5点	2
C ^{マル} O C C	4点	C C C	3点			1

第2学年 各学期の学習の内容とポイント

	学 習 す る こ と	学 習 の ポ イ ン ト
一 学 期	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問いを立てながら聞く」 ・「魅力的な提案をしよう」 <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分流の「枕草子」を書こう ・「多様な方法で情報を集めよう」 ・「言葉を比べよう」 <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「見えないだけ」牟礼慶子 ・「アイスプラネット」椎名誠 ・「枕草子」清少納言 ・「クマゼミ増加の原因を探る」沼田英治 ・「短歌に親しむ」馬場あき子 ・「短歌を味わう」 ・「言葉の力」大岡信 <p>【文法・漢字等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熟語の構成・類義語・対義語・多義語 ・自立語と付属語 自立語の分類・硬筆 	<p>○資料を活用した説明の仕方を学びます。わかりやすく印象的な説明の仕方を考えましょう。</p> <p>○目的や相手に応じて、説明の仕方を工夫して書きましょう。</p> <p>○小説は、作品中の言葉を手がかりにして、作者の思いや登場人物の心情を読み取っていきましょう。詩や短歌は、繰り返し音読することによって、イメージを広げていきましょう。 説明的文章は、文章の全体と部分の関係や、具体的事例の役割などに注意して、筆者の主張を読み取りましょう。</p> <p>○漢字は、定期的に確認テストを実施します。 文法は覚えることがたくさんあります。練習問題を繰り返し解きながら理解を深めましょう。</p> <p>○硬筆は、校内に展示します。 優秀作品は市の展覧会に出品します。</p>
二 学 期	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞き上手になろう」 ・「立場を尊重して話し合おう」 <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「表現を工夫して書こう」 ・「根拠の適切さを考えて書こう」 ・「魅力を効果的に伝えよう」 <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「盆土産」三浦哲郎 ・「字のない葉書」向田邦子 ・「モアイは語る」安田喜憲 ・「君は『最後の晩餐』を知っているか」 布施英利 ・「平家物語」 ・「徒然草」兼好法師 ・「漢詩の風景」石川忠久 <p>【文法・漢字等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬語 ・自立語の活用 ・同じ訓・同じ音をもつ漢字・書き初め 	<p>○相手の立場を尊重し、相手の意見を受け入れながら、自分の意見を述べていきましょう。</p> <p>○意見文の書き方を学びます。自分の立場を明らかにし、根拠を明らかにして、説得力のある文章を書きましょう。</p> <p>○2学期は古典学習が入ってきます。繰り返し音読し、文体やリズムに慣れましょう。また、古人のものの見方や考え方に着目して読んでいきましょう。 漢詩では、漢文の訓読の仕方も学習します。訓読のルールをしっかりと理解しましょう。</p> <p>○敬語は、尊敬語・謙譲語・丁寧語を理解し、実際に使えるようにしましょう。 同訓異字・同音異義語は、意味や用例を辞書で調べ、理解を深めましょう。 文法で学習する「活用」は3学期にもつながります。確実に理解をしましょう。</p> <p>○書き初めも硬筆と同様、校内に展示し、優秀作品は市の展覧会に出品します。</p>
三 学 期	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の学びを振り返ろう <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「構成や展開を工夫して書こう」 <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「走れメロス」太宰治 ・「木」田村隆一 <p>【文法・漢字等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付属語 ・送り仮名の付け方 ・話し言葉と書き言葉 	<p>○「走れメロス」では、作品中の描写や会話に着目しながら、登場人物の人物像の変化を読み味わいましょう。</p> <p>○文法は、1学期同様覚えることがたくさんあります。付属語は意味や働きを理解することが大切です。練習問題を繰り返し解きながら理解を深めていきましょう。送り仮名の付け方にはルールがあり、2学期に学習した「活用」がポイントになります。復習をしておきましょう</p>